

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 3 区分

【発行日】平成 16 年 10 月 28 日 (2004.10.28)

【公開番号】特開 2000-253377 (P2000-253377A)

【公開日】平成 12 年 9 月 14 日 (2000.9.14)

【出願番号】特願 2000-7173 (P2000-7173)

【国際特許分類第 7 版】

H 0 4 N 7/173

G 1 1 B 15/02

G 1 1 B 31/00

H 0 4 N 5/76

【F I】

H 0 4 N 7/173 6 1 0 Z

G 1 1 B 15/02 3 5 5

G 1 1 B 31/00 5 4 1 F

H 0 4 N 5/76 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 10 月 29 日 (2003.10.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも 1 つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアルシステム的使用方法であって、

(a) (i) 前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツの特徴に関する情報のうちの少なくとも 1 つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、

(i i) ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも 1 つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、

(i i i) 利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも 1 つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも 2 つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも 2 つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも 2 つの間の関係のうちの少なくとも 1 つに関する情報を含むシステム記述スキームとのうちの少なくとも 1 つを提供するステップと、

(b) 前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム及び前記システム記述スキームのうちの前記少なくとも 1 つに基づいて、動画、画像及びオーディオの コンテンツの中から、少なくとも 1 コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択するステップとを有することを特徴とするオーディオビジュアルシステム的使用方法。

【請求項 2】

オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも 1 つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアルシステム的使用方法であって、

(a) (i) 前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツの特徴に関する情報のうちの少なくとも1つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、

(i i) ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも1つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、

(i i i) 利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも1つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係のうちの少なくとも1つに関する情報を含むシステム記述スキームとのうちの少なくとも2つを提供するステップと、

(b) 前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム及び前記システム記述スキームのうちの前記少なくとも2つに基づいて、動画、画像及びオーディオのコンテンツの中から、少なくとも1コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択するステップとを有することを特徴とするオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項3】

前記プログラム記述スキームは、前記複数のフレームに関連したタイトル、カテゴリ、注釈、キーワード及び日付のうちの少なくとも1つを含むことを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項4】

前記プログラム記述スキームは、ビューを記録するためのフィールドを含み、(1) 前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報は前記動画のキーフレームの識別情報を含み、(2) 前記複数のフレーム間の相互関係に関する情報は前記動画の少なくとも一部のハイライトを示す複数の前記フレームの識別情報を含み、(3) 前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報は1セットのフレームの識別情報を含み、各々フレームが前記動画の異なる部分を示し、(4) 前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報はショット及びシーンのうちの少なくとも1つを示す前記動画の複数のシーケンシャルフレームの識別情報を含むことを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項5】

前記プログラム記述スキームは、前記動画の少なくとも一部のカラープロフィル、前記動画の少なくとも一部のテクスチャプロフィル、前記動画の少なくとも一部の形状プロフィル及び前記動画の少なくとも一部の動きプロフィルのうちの少なくとも1つを記録するためのフィールドを含むことを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項6】

前記プログラム記述スキームは、前記動画の通常のオーディオトラックとは別個の第2のオーディオトラックの識別番号を含むことを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項7】

前記プログラム記述スキームは、前記動画に関連するインターネットに基づく情報を識別して保持することを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項8】

前記プログラム記述スキームは前記動画の複数のフレームのシンタックス構造を含むことを特徴とする請求項1又は2に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項9】

前記プログラム記述スキームは前記動画の複数の前記フレームに関するセマンティック構造を含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 10】

動画のコンテンツ自体から前記プログラム記述スキームのための情報を抽出することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 11】

前記プログラム記述スキームの前記情報に基づいて、ユーザが決定した時間の前記動画の要約を発生するステップを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 12】

(a) 前記動画のコンテンツに基づいて、前記動画の要約及びキーフレーム情報の少なくとも 1 つを発生するステップと、

(b) 前記プログラム記述スキームに、前記要約及びキーフレーム情報のうちの前記少なくとも 1 つを含めるステップとを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 13】

前記ユーザ記述スキームは前記ユーザの視聴履歴に関連する情報を含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 14】

前記ユーザに関する前記情報は地理的情報及び人口統計的情報のうちの少なくとも 1 つを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 15】

前記ユーザ記述スキームはユーザの個人的な好みを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 16】

前記ユーザ記述スキームはハンドヘルドの電子デバイス内に含まれることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 17】

前記ユーザ記述スキームは、ラジオ放送のための予め選択した周波数及び予め選択した局のうちの、少なくとも 1 つを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 18】

前記システム記述スキームは、前記オーディオ、画像及び動画のうちの前記少なくとも 1 つを前記ユーザに提供するための前記デバイスのケーパビリティを含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 19】

放送テレビ、ケーブルテレビ、衛星テレビ、デジタルテレビ、インターネット放送、ワールドワイドウェブ、デジタル動画ディスク、静止画像、ビデオカメラ、レーザーディスク、磁気媒体、コンピュータのハードドライブ、動画テープ、データサービス及びマイクロウェーブ通信のうちの少なくとも 1 つから前記動画を受信することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 20】

デジタルテレビ放送における P S I P / D V B - S I 情報、特殊なデジタルテレビデータサービス、特殊なインターネットサービス、データファイル、電話回線を通じたデータ及びコンピュータメモリのうちの少なくとも 1 つから前記プログラム記述スキームを受信することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 21】

前記動画の受信に応答し、前記ユーザ記述スキーム内の情報と共に、前記動画のコンテンツの解析を実行するかを決定するステップを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 2】

(a) システム記述スキーム及びプログラム記述スキームのうちの少なくとも 1 つに含まれる情報を抽出するステップと、

(b) 該抽出に基づいて、前記ユーザ記述スキームに含まれる前記情報を変更するステップとを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 3】

(a) 第 1 のポータブルデバイスに前記ユーザ記述スキームを記録するステップと、

(b) 前記ポータブルデバイスと各々が前記ユーザ記述スキーム内に含まれる情報を使用する複数の異なる第 2 デバイスとを相互接続するステップとを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 4】

前記プログラム記述スキームは、カメラに含まれ、前記オーディオビジュアルシステムは、前記ユーザ記述スキームの前記情報及び前記システム記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、前記カメラに含まれる前記情報を変更することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 5】

前記オーディオビジュアルシステムは、前記プログラム記述スキームの前記情報及び前記ユーザ記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、動画を識別するためのサーチデバイスを更に備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 6】

前記オーディオビジュアルシステムは、前記プログラム記述スキーム内に含まれる前記情報及び前記ユーザ記述スキーム内に含まれる前記情報に基づいて前記ユーザに好ましい動画放送を記録する記録装置を更に備えることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 7】

(a) 第 1 デバイスに前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも 1 つの前記スキームを記録するステップと、

(b) ネットワークを通して前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも 1 つの前記スキームを第 2 デバイスへ転送することをさらに含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 8】

(a) ネットワークにわたって前記システム記述スキームをオーディオ、画像及び動画データのうちの少なくとも 1 つのプロバイダに提供するステップと、

(b) 前記システム記述スキームの受信に응答し、前記プロバイダが該システム記述スキームに従ってオーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも 1 つを選択するステップと、

(c) 前記オーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも 1 つをユーザのためのデバイスに提供するステップとを更に含むことを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のオーディオビジュアルシステムの使用方法。

【請求項 2 9】

オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも 1 つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアル装置であって、

(i) 前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツ

の特徴に関する情報のうちの少なくとも1つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、(i i) ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも1つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、(i i i) 利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャンネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも1つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係のうちの少なくとも1つに関する情報を含むシステム記述スキームと、のうち、少なくとも一つを記憶するスキーム記憶手段と、

該スキーム記憶手段によって記憶されている前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキームのうちの少なくとも1つに基づいて、動画、画像及びオーディオのコンテンツの中から、少なくとも1コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択する選択手段と、
を備えたことを特徴とするオーディオビジュアル装置。

【請求項30】

動画のコンテンツ自体から前記プログラム記述スキームのための情報を抽出する手段を備えたことを特徴とする請求項29に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項31】

前記プログラム記述スキームの前記情報に基づいて、ユーザが決定した時間の前記動画の要約を発生する動画要約手段をさらに備えたことを特徴とする請求項29又は30に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項32】

前記動画のコンテンツに基づいて、前記動画の要約及びキーフレーム情報の少なくとも1つを発生する手段と、

前記プログラム記述スキームに、前記要約及びキーフレーム情報のうちの前記少なくとも1つを含め保持する手段と、
をさらに備えたことを特徴とする請求項29乃至31のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項33】

放送テレビ、ケーブルテレビ、衛星テレビ、デジタルテレビ、インターネット放送、ワールドワイドウェブ、デジタル動画ディスク、静止画像、ビデオカメラ、レーザーディスク、磁気媒体、コンピュータのハードドライブ、動画テープ、データサービス及びマイクロウェーブ通信のうちの少なくとも1つから前記動画を受信する手段をさらに備えたことを特徴とする請求項29乃至32のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項34】

デジタルテレビ放送におけるP S I P / D V B S I 情報、特殊なデジタルテレビデータサービス、特殊なインターネットサービス、データファイル、電話回線を通したデータ及びコンピュータメモリのうちの少なくとも1つから前記プログラム記述スキームを受信する手段をさらに備えたことを特徴とする請求項29乃至33のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項35】

前記動画の受信に応答し、前記ユーザ記述スキーム内の情報と共に、前記動画のコンテンツの解析を実行するか否かを決定する手段をさらに備えたことを特徴とする請求項33に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項36】

前記システム記述スキーム及びプログラム記述スキームのうちの少なくとも1つに含まれる情報を抽出する手段と、

該抽出に基づいて、前記ユーザ記述スキームに含まれる前記情報を変更する手段と、

をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 35 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 37】

前記プログラム記述スキームの前記情報及び前記ユーザ記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、動画を識別する手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 36 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 38】

前記プログラム記述スキーム内に含まれる前記情報及び前記ユーザ記述スキーム内に含まれる前記情報に基づいて、前記ユーザに好ましい動画放送を記録する記録装置をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 37 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 39】

前記スキーム記憶手段で記憶された、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも 1 つの前記スキームを、第 1 デバイスに記録する手段と、

前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも 1 つの前記スキームを、該スキーム内に含まれる情報を使用する第 2 デバイスにネットワークを通して転送する手段と、

をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 38 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 40】

前記スキーム記憶手段は、当該オーディオビジュアル装置から取り外し可能であることを特徴とする請求項 29 乃至 39 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 41】

前記ユーザ記述スキームは、当該オーディオビジュアル装置から取り外し可能かつ運搬可能な外部記憶装置に記憶されることを特徴とする請求項 29 乃至 40 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 42】

前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキームのいずれかを、ネットワークを通じて取得するネットワーク接続手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 41 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 43】

前記ユーザ記述スキームから得られるユーザ情報から得られる情報を使って、AVプログラムの解析を実行するAVプログラム解析手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 42 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 44】

前記動画の要約の作成を補助する知識ベースシステムをさらに備え、前記AVプログラム解析手段は、前記知識ベースシステムの補助を受け前記動画の要約を作成する手段を有することを特徴とする請求項 43 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 45】

コマーシャルフィルタをさらに備え、前記AVプログラム解析手段が前記要約を作成する段階において、前記知識ベースシステムは前記コマーシャルフィルタを利用することを特徴とする請求項 44 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 46】

スローモーション検出器をさらに備え、前記AVプログラム解析手段が前記要約を作成する段階において、前記知識ベースシステムはスローモーション検出器を利用することを特徴とする請求項 44 又は 45 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 47】

前記いずれかの記述スキームに含まれる情報に基づいて、AVプログラムのフィルタリング、あるいはサーチ、あるいはブラウジングを実行するサーチ・フィルタリング・ブラウ

ジング手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 46 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 48】

前記 3 つの記述スキームに基づき、ユーザが関心を持つ過去のオーディオビジュアル情報を、自主的にかつ周期的に取得し記録する手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 47 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 49】

前記ユーザ記述スキームが保持する、ユーザの好み、ユーザの使用パターン、ユーザの使用履歴のいずれかの情報を用いて、ユーザの嗜好に合った AV プログラムを発見し、該発見した AV プログラムに関して、ユーザに通知し、自主的に記録するユーザエージェント手段をさらに備えたことを特徴とする請求項 29 乃至 48 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 50】

前記 AV プログラム解析手段は、前記 AV プログラムをカテゴライズし、カテゴリのインデックスを表示し、かつ、前記インデックスのうち選択されているインデックスについて、該インデックスが指し示すカテゴリに属する AV プログラムを一覧で表示する手段を有することを特徴とする請求項 43 乃至 46 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 51】

前記カテゴライズは、放送チャンネルに基づいて行うことを特徴とする請求項 50 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 52】

前記 AV プログラムの一覧表示は、前記 AV プログラムが含む内容のテキスト表示で行うことを特徴とする請求項 50 又は 51 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 53】

前記 AV プログラム解析手段は、前記 AV プログラムの代表的なフレームをそれぞれの AV プログラムに対して抽出し、前記抽出した代表フレームの一部あるいは全部を一覧表示し、前記一覧表示されたフレームのうち選択されたフレームが属する AV プログラムをさらに表示するとともに、該 AV プログラムが含むフレームをさらに表示する手段を有することを特徴とする請求項 43 乃至 46 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 54】

前記選択された AV プログラムが含むフレームの前記表示は、該 AV プログラムが含む代表的なフレームを先頭にした表示であることを特徴とする請求項 53 に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 55】

前記 AV プログラム解析手段は、前記 AV プログラムのキーフレームをそれぞれ抽出し、前記抽出したキーフレームの一部あるいは全部を一覧表示し、前記表示したキーフレームのうち選択されたキーフレームが属する AV プログラムを表示するとともに、該 AV プログラムが含むキーフレームの一部あるいは全部を表示する手段を有することを特徴とする請求項 43 乃至 46 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 56】

前記 AV プログラムの要約としてハイライトを放送する放送時間を指定し入力するハイライト放送時間指定入力手段をさらに備え、前記 AV プログラム解析手段は、前記入力された放送時間に基づいてハイライトを作成し、該作成したハイライトを表示する手段を有することを特徴とする請求項 43 乃至 46 のいずれか 1 項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項 57】

前記 AV プログラム解析手段は、前記 AV プログラムを動画解析することでイベント情報を取得し、該取得したイベント情報の一部あるいは全部を表示し、該表示したイベント情

報のうち選択されたイベント情報に基づいて、該選択されたイベント情報が属するショットを表示する手段を有することを特徴とする請求項43乃至46のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項58】

前記AVプログラム解析手段は、前記AVプログラムを動画解析することで動画に含まれるオブジェクトに関する情報を取得し、該取得したオブジェクト情報のうち一部あるいは全部を表示し、該表示したオブジェクト情報のうち選択されたオブジェクト情報に基づいて、該選択されたオブジェクト情報が属するショットのうちいずれかを表示し、前記選択されたオブジェクト情報が属するショットの一部あるいは全部をインデックス表示する手段を有することを特徴とする請求項43乃至46のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項59】

前記プログラム記述スキームは、異なるバージョンのハイライトに関する情報を含み、前記AVプログラム解析手段は、前記プログラム記述スキームに記述された異なるバージョンのハイライトに関する情報に基づいて、前記ハイライトを作成する手段を有することを特徴とする請求項43乃至46のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項60】

前記プログラム記述スキームは、クローズアップ領域に関する情報を含み、前記AVプログラム解析手段は、前記プログラム記述スキームに記述されたクローズアップ領域に関する情報に基づいて、クローズアップ映像を生成する手段を有することを特徴とする請求項43乃至46のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置。

【請求項61】

請求項29乃至60のいずれか1項に記載のオーディオビジュアル装置と、オーディオ、画像及び動画データのうちの少なくとも1つを提供するサーバ装置と、をネットワーク接続したオーディオビジュアルシステムであって、前記オーディオビジュアル装置は、ネットワークにわたって前記システム記述スキームを前記サーバ装置に提供する提供手段を有し、

前記サーバ装置は、前記提供手段で提供されたシステム記述スキームを受信し、該受信に応答し、前記システム記述スキームに従ってオーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つを選択する手段と、前記オーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つを、前記オーディオビジュアル装置又はその他のユーザのためのデバイスに提供する手段と、を有することを特徴とするオーディオビジュアルシステム。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

RePlayTV及びTiVo社は、VCRと同じようにテレビ放送を受信し、録画し、再生するハードディスクを使ったシステムを開発した。これらシステムは視聴者の見る好みに従って、プログラムできる。これらシステムはテレビガイドから入手できる情報と同様なスケジュール情報を受信するのに、テレビ回線のインターフェースを使用している。システムのプログラム及びスケジュール情報に基づき、システムは視聴者にとって潜在的な関心のあるプログラムを自動的に録画する。不幸なことに、録画されたプログラムの視聴はリニア状に行われ、かなりの時間を必要とすることがある。更に、個人の好みに対しては、同じように異なる態様で各システムをプログラムしなければならない。

フリーマン(Freeman)他による米国特許第5,861,881号は、加入者が個人用のコンテンツを受信できるようなインタラクティブなコンピュータシステムを開示している。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 6 】

【課題を解決するための手段】

本発明は、オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも1つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアルシステムの使用方法であって、(a)(i)前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツの特徴に関する情報のうちの少なくとも1つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、(ii)ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも1つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、(iii)利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも1つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係のうちの少なくとも1つに関する情報を含むシステム記述スキームとのうちの少なくとも1つを提供するステップと、(b)前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム及び前記システム記述スキームのうちの前記少なくとも1つに基づいて、動画、画像及びオーディオのコンテンツの中から、少なくとも1コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択するステップとを有することを特徴としたものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 0 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 0 7 】

本発明は、オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも1つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアルシステムの使用方法であって、(a)(i)前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツの特徴に関する情報のうちの少なくとも1つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、(ii)ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも1つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、(iii)利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも1つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係のうちの少なくとも1つに関する情報を含むシステム記述スキームとのうちの少なくとも2つを提供するステップと、(b)前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム及び前記システム記述スキームのうちの前記少なくとも2つに基づいて、動画、画像及びオーディオのコンテンツの中から、少なくとも1コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択するステップとを有することを特徴としたものである。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、前記複数のフレームに関連したタイトル、カテゴリ、注釈、キーワード及び日付のうちの少なくとも1つを含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、ビューを記録するためのフィールドを含み、(1)前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報は前記動画のキーフレームの識別情報を含み、(2)前記複数のフレーム間の相互関係に関する情報は前記動画の少なくとも一部のハイライトを示す複数の前記フレームの識別情報を含み、(3)前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報は1セットのフレームの識別情報を含み、各々フレームが前記動画の異なる部分を示し、(4)前記複数のフレームの間の相互関係に関する情報はショット及びシーンのうちの少なくとも1つを示す前記動画の複数のシーケンシャルフレームの識別情報を含むことを特徴としたものである。

【手続補正6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0009】

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、前記動画の少なくとも一部のカラープロフィール、前記動画の少なくとも一部のテクスチャプロフィール、前記動画の少なくとも一部の形状プロフィール及び前記動画の少なくとも一部の動きプロフィールのうちの少なくとも1つを記録するためのフィールドを含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、前記動画の通常のオーディオトラックとは別個の第2のオーディオトラックの識別番号を含むことを特徴としたものである。

【手続補正7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、前記動画に関連するインターネットに基づく情報を識別して保持することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは前記動画の複数のフレームのシンタックス構造を含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは前記動画の複数の前記フレームに関するセマンティック構造を含むことを特徴としたものである。

【手続補正8】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0011

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0011】

さらに本発明は、動画のコンテンツ自体から前記プログラム記述スキームのための情報を抽出することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームの前記情報に基づいて、ユーザが決定した時間の前記動画の要約を発生するステップを更に含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、(a) 前記動画のコンテンツに基づいて、前記動画の要約及びキーフレーム情報の少なくとも1つを発生するステップと、(b) 前記プログラム記述スキームに、前記要約及びキーフレーム情報のうちの前記少なくとも1つを含めるステップとを更に含むことを特徴としたものである。

【手続補正 9】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 2】

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームは前記ユーザの視聴履歴に関連する情報を含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記ユーザに関する前記情報は地理的情報及び人口統計的情報のうちの少なくとも1つを含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームはユーザの個人的な好みを含むことを特徴としたものである。

【手続補正 1 0】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 3】

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームはハンドヘルドの電子デバイス内に含まれることを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームは、ラジオ放送のための予め選択した周波数及び予め選択した局のうちの、少なくとも1つを含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記システム記述スキームは、前記オーディオ、画像及び動画のうちの前記少なくとも1つを前記ユーザに提供するための前記デバイスのケーパビリティを含むことを特徴としたものである。

【手続補正 1 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

さらに本発明は、放送テレビ、ケーブルテレビ、衛星テレビ、デジタルテレビ、インターネット放送、ワールドワイドウェブ、デジタル動画ディスク、静止画像、ビデオカメラ、レーザーディスク、磁気媒体、コンピュータのハードドライブ、動画テープ、データサービス及びマイクロウェーブ通信のうちの少なくとも1つから前記動画を受信することを特徴としたものである。

さらに本発明は、デジタルテレビ放送における P S I P / D V B - S I 情報、特殊なデジタルテレビデータサービス、特殊なインターネットサービス、データファイル、電話回線を通じたデータ及びコンピュータメモリのうちの少なくとも1つから前記プログラム記述スキームを受信することを特徴としたものである。

【手続補正 1 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 5】

さらに本発明は、前記動画の受信に応答し、前記ユーザ記述スキーム内の情報と共に、前記動画のコンテンツの解析を実行するかを決定するステップを更に含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、(a) システム記述スキーム及びプログラム記述スキームのうちの少なくとも1つに含まれる情報を抽出するステップと、(b) 該抽出に基づいて、前記ユーザ記述スキームに含まれる前記情報を変更するステップとを更に含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、(a) 第1のポータブルデバイスに前記ユーザ記述スキームを記録するステップと、(b) 前記ポータブルデバイスと各々が前記ユーザ記述スキーム内に含まれる情報を使用する複数の異なる第2デバイスとを相互接続するステップとを更に含むことを特徴としたものである。

【手続補正13】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0016

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0016】

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、カメラに含まれ、前記オーディオビジュアルシステムは、前記ユーザ記述スキームの前記情報及び前記システム記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、前記カメラに含まれる前記情報を変更することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記オーディオビジュアルシステムは、前記プログラム記述スキームの前記情報及び前記ユーザ記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、動画を識別するためのサーチデバイスを更に備えることを特徴としたものである。

【手続補正14】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0017

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0017】

さらに本発明は、前記オーディオビジュアルシステムは、前記プログラム記述スキーム内に含まれる前記情報及び前記ユーザ記述スキーム内に含まれる前記情報に基づいて前記ユーザに好ましい動画放送を記録する記録装置を更に備えることを特徴としたものである。

さらに本発明は、(a) 第1デバイスに前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも1つの前記スキームを記録するステップと、(b) ネットワークを通して前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも1つの前記スキームを第2デバイスへ転送することをさらに含むことを特徴としたものである。

さらに本発明は、(a) ネットワークにわたって前記システム記述スキームをオーディオ、画像及び動画データのうちの少なくとも1つのプロバイダに提供するステップと、(b) 前記システム記述スキームの受信に응答し、前記プロバイダが該システム記述スキームに従ってオーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つを選択するステップと、(c) 前記オーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つをユーザのためのデバイスに提供するステップとを更に含むことを特徴としたものである。

【手続補正15】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0018

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0018】

本発明は、オーディオ、画像及び複数のフレームを含む動画のうちの少なくとも1つを伴うオーディオビジュアルシステムを使用するオーディオビジュアル装置であって、(i) 前記複数のフレーム間の相互関係、前記複数のフレームのコンテンツの特徴、前記オーディオのコンテンツの特徴、前記画像のコンテンツの特徴、前記動画のコンテンツの特徴に関する情報のうちの少なくとも1つに関連する情報を含むプログラム記述スキームと、(i i) ユーザの個人的な好み、前記ユーザに関する情報、ユーザの視聴履歴のうちの少なくとも1つに関する情報を含むユーザ記述スキームと、(i i i) 利用可能な動画、利用可能なカテゴリ、利用可能なチャネル、利用可能なユーザ、利用可能な画像、前記オーディオと前記画像と前記動画のうちの前記少なくとも1つをユーザに提供するためのデバイスのケーパビリティ、前記動画と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記オーディオと前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係、前記画像と前記プログラム記述スキームと前記ユーザ記述スキームのうちの少なくとも2つの間の関係のうちの少なくとも1つに関する情報を含むシステム記述スキームと、のうちの、少なくとも一つを記憶するスキーム記憶手段と、該スキーム記憶手段によって記憶されている前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキームのうちの少なくとも1つに基づいて、動画、画像及びオーディオのコンテンツの中から、少なくとも1コンテンツ、或いはあるコンテンツ中のシーン又はフレームを選択する選択手段と、を備えたことを特徴としたものである。

【手続補正16】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

さらに本発明は、動画のコンテンツ自体から前記プログラム記述スキームのための情報を抽出する手段を備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームの前記情報に基づいて、ユーザが決定した時間の前記動画の要約を発生する動画要約手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記動画のコンテンツに基づいて、前記動画の要約及びキーフレーム情報の少なくとも1つを発生する手段と、前記プログラム記述スキームに、前記要約及びキーフレーム情報のうちの前記少なくとも1つを含め保持する手段と、をさらに備えたことを特徴としたものである。

【手続補正17】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0020

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0020】

さらに本発明は、放送テレビ、ケーブルテレビ、衛星テレビ、デジタルテレビ、インターネット放送、ワールドワイドウェブ、デジタル動画ディスク、静止画像、ビデオカメラ、レーザーディスク、磁気媒体、コンピュータのハードドライブ、動画テープ、データサービス及びマイクロウェーブ通信のうちの少なくとも1つから前記動画を受信する手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、デジタルテレビ放送におけるP S I P / D V B S I 情報、特殊なデジタルテレビデータサービス、特殊なインターネットサービス、データファイル、電話回線を通したデータ及びコンピュータメモリのうちの少なくとも1つから前記プログラム記述スキームを受信する手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記動画の受信に応答し、前記ユーザ記述スキーム内の情報と共に、

前記動画のコンテンツの解析を実行するか否かを決定する手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

【手続補正 18】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

さらに本発明は、前記システム記述スキーム及びプログラム記述スキームのうちの少なくとも1つに含まれる情報を抽出する手段と、該抽出に基づいて、前記ユーザ記述スキームに含まれる前記情報を変更する手段と、をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームの前記情報及び前記ユーザ記述スキームの前記情報に少なくとも一部に基づいて、動画を識別する手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

【手続補正 19】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0022

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0022】

さらに本発明は、前記プログラム記述スキーム内に含まれる前記情報及び前記ユーザ記述スキーム内に含まれる前記情報に基づいて、前記ユーザに好ましい動画放送を記録する記録装置をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記スキーム記憶手段で記憶された、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも1つの前記スキームを、第1デバイスに記録する手段と、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキーム及び前記プログラム記述スキームのうち、少なくとも1つの前記スキームを、該スキーム内に含まれる情報を使用する第2デバイスにネットワークを通して転送する手段と、をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記スキーム記憶手段は、当該オーディオビジュアル装置から取り外し可能であることを特徴としたものである。

【手続補正 20】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームは、当該オーディオビジュアル装置から取り外し可能かつ運搬可能な外部記憶装置に記憶されることを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキーム、前記ユーザ記述スキーム、前記システム記述スキームのいずれかを、ネットワークを通じて取得するネットワーク接続手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームから得られるユーザ情報から得られる情報を使って、AVプログラムの解析を実行するAVプログラム解析手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

【手続補正 21】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 2 4 】

さらに本発明は、前記動画の要約の作成を補助する知識ベースシステムをさらに備え、前記 A V プログラム解析手段は、前記知識ベースシステムの補助を受け前記動画の要約を作成する手段を有することを特徴としたものである。

さらに本発明は、コマーシャルフィルタをさらに備え、前記 A V プログラム解析手段が前記要約を作成する段階において、前記知識ベースシステムは前記コマーシャルフィルタを利用することを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 2 2 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 5

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 5 】

さらに本発明は、スローモーション検出器をさらに備え、前記 A V プログラム解析手段が前記要約を作成する段階において、前記知識ベースシステムはスローモーション検出器を利用することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記いずれかの記述スキームに含まれる情報に基づいて、A V プログラムのフィルタリング、あるいはサーチ、あるいはブラウジングを実行するサーチ・フィルタリング・ブラウジング手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記 3 つの記述スキームに基づき、ユーザが関心を持つ過去のオーディオビジュアル情報を、自主的にかつ周期的に取得し記録する手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 2 3 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 6

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 6 】

さらに本発明は、前記ユーザ記述スキームが保持する、ユーザの好み、ユーザの使用パターン、ユーザの使用履歴のいずれかの情報を用いて、ユーザの嗜好に合った A V プログラムを発見し、該発見した A V プログラムに関して、ユーザに通知し、自主的に記録するユーザエージェント手段をさらに備えたことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記 A V プログラム解析手段は、前記 A V プログラムをカテゴライズし、カテゴリのインデックスを表示し、かつ、前記インデックスのうち選択されているインデックスについて、該インデックスが指し示すカテゴリに属する A V プログラムを一覧で表示する手段を有することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記カテゴライズは、放送チャンネルに基づいて行うことを特徴としたものである。

【 手 続 補 正 2 4 】

【 補 正 対 象 書 類 名 】 明 細 書

【 補 正 対 象 項 目 名 】 0 0 2 7

【 補 正 方 法 】 変 更

【 補 正 の 内 容 】

【 0 0 2 7 】

さらに本発明は、前記 A V プログラムの一覧表示は、前記 A V プログラムが含む内容のテキスト表示で行うことを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記 A V プログラム解析手段は、前記 A V プログラムの代表的なフレームをそれぞれの A V プログラムに対して抽出し、前記抽出した代表フレームの一部あるいは全部を一覧表示し、前記一覧表示されたフレームのうち選択されたフレームが属する A V プログラムをさらに表示するとともに、該 A V プログラムが含むフレームをさらに表

示する手段を有することを特徴としたものである。

【手続補正 25】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

さらに本発明は、前記選択されたAVプログラムが含むフレームの前記表示は、該AVプログラムが含む代表的なフレームを先頭にした表示であることを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記AVプログラム解析手段は、前記AVプログラムのキーフレームをそれぞれ抽出し、前記抽出したキーフレームの一部あるいは全部を一覧表示し、前記表示したキーフレームのうち選択されたキーフレームが属するAVプログラムを表示するとともに、該AVプログラムが含むキーフレームの一部あるいは全部を表示する手段を有することを特徴としたものである。

【手続補正 26】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0029

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0029】

さらに本発明は、前記AVプログラムの要約としてハイライトを放送する放送時間を指定し入力するハイライト放送時間指定入力手段をさらに備え、前記AVプログラム解析手段は、前記入力された放送時間に基づいてハイライトを作成し、該作成したハイライトを表示する手段を有することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記AVプログラム解析手段は、前記AVプログラムを動画解析することでイベント情報を取得し、該取得したイベント情報の一部あるいは全部を表示し、該表示したイベント情報のうち選択されたイベント情報に基づいて、該選択されたイベント情報が属するショットを表示する手段を有することを特徴としたものである。

【手続補正 27】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0030

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0030】

さらに本発明は、前記AVプログラム解析手段は、前記AVプログラムを動画解析することで動画に含まれるオブジェクトに関する情報を取得し、該取得したオブジェクト情報のうち一部あるいは全部を表示し、該表示したオブジェクト情報のうち選択されたオブジェクト情報に基づいて、該選択されたオブジェクト情報が属するショットのうちいずれかを表示し、前記選択されたオブジェクト情報が属するショットの一部あるいは全部をインデックス表示する手段を有することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、異なるバージョンのハイライトに関する情報を含み、前記AVプログラム解析手段は、前記プログラム記述スキームに記述された異なるバージョンのハイライトに関する情報に基づいて、前記ハイライトを作成する手段を有することを特徴としたものである。

さらに本発明は、前記プログラム記述スキームは、クローズアップ領域に関する情報を含み、前記AVプログラム解析手段は、前記プログラム記述スキームに記述されたクローズアップ領域に関する情報に基づいて、クローズアップ映像を生成する手段を有することを特徴としたものである。

【手続補正 28】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 1 】

上述のオーディオビジュアル装置と、オーディオ、画像及び動画データのうちの少なくとも1つを提供するサーバ装置と、をネットワーク接続したオーディオビジュアルシステムであって、前記オーディオビジュアル装置は、ネットワークにわたって前記システム記述スキームを前記サーバ装置に提供する提供手段を有し、前記サーバ装置は、前記提供手段で提供されたシステム記述スキームを受信し、該受信に応答し、前記システム記述スキームに従ってオーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つを選択する手段と、前記オーディオ、画像及び動画データのうちの前記少なくとも1つを、前記オーディオビジュアル装置又はその他のユーザのためのデバイスに提供する手段と、を有することを特徴としたものである。

【手続補正 2 9】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 2

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 3 0】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 3

【補正方法】 削除

【補正の内容】

【手続補正 3 1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 4 7

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 4 7 】

更に、ユーザ記述スキーム 2 0 は、例えばハンドヘルドの電子デバイスやスマートカードで、あるいは多数の装置を接続するネットワークを通してトランスポートされることで、ユーザがある装置から別の装置へ持ち運ぶことができるように、モジュラ式で、かつポータブルである。このユーザ記述スキーム 2 0 は異なる製品の間で標準化されれば、ユーザの好みもポータブルとなる。例えば、ユーザはホテルの部屋内のテレビ受像機をパーソナリ化でき、よってユーザは任意の時間及び任意の場所で好きな情報にアクセスすることが可能である。ある意味でこのユーザ記述スキーム 2 0 は、永続的であり、時間をベースとしないものである。更に、プログラム記述スキーム 1 8 内の選択された情報は暗号化が可能である。その理由は、この情報の少なくとも一部はプライベート（すなわち人口統計学的）なものとみなすことができるからである。ユーザ記述スキーム 2 0 はオーディオビジュアルプログラム放送と関連づけでき、受信機の特定のユーザの記述スキーム 2 0 と比較し、プログラムが意図する視聴者のプロフィールが、ユーザのプロフィールと一致するかどうかを容易に判断できる。本発明の実施形態のうちの1つは、単にユーザ記述スキーム 2 0 のみが含まれるものであると理解すべきである。

【手続補正 3 2】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 5 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 5 2 】

特定のプログラムのプログラム記述スキーム 1 8 及びビューシステムのシステム記述スキーム 2 2 を利用して、ビューシステムに適切なビューを提供できる。従って、プログラムのサーバは特定のビューシステムのケーパビリティに従って適切なビューを提供し、このビューはサーバとユーザのビュー装置とを接続するネットワーク又は通信チャネルを通して通信できる。コンテンツプロバイダはコンテンツ及び記述スキームを別のスタイル、時間、フォーマットでパッケージし直すので、システム記述スキーム 2 2 と別個のプログラム記述スキーム 1 8 を維持することが好ましい。更に、プログラムが別の時間にディスプレイされる場合でも、プログラム記述スキーム 1 8 とプログラムとを関連させることが好ましい。従って、システム記述スキーム 2 2 及びプログラム記述スキーム 1 8 しか含まないシステムも有利である。